

2月1日の大雪には驚きましたね。雪かきで疲れている方もいるのではないのでしょうか。インフルエンザも流行っていますので、体には十分気をつけてお過ごしください。

～鈴木酒造店長井蔵さんより～

昨年11月、多くの人のお手をお借りし、3年目の「甦る」を仕込みました。12月に搾りを行い即瓶詰め。現在は飯豊町の雪室で3月11日の出荷を待っています。「甦る」は、私たちが事業を引き継いだ東洋酒造の元銘柄で、レインボープラン市民農場様、福幸ファーム様からお話を頂戴し、避難者と市民が協働で育てた「さわのはな」を原料米にした純米吟醸酒で、「思いやりと心意気は無限」をテーマにした復興支援酒です。

3月11日を迎える度に、「改めて思うことは？」とよく聞かれますが、私自身答えは何も変わりません。故郷の浪江町請戸地区では、契約栽培農家さんご一家、幼馴染である年の近い後輩たち、震災で命を繋げなかった多くの人たちの尊厳を守れませんでした。救えるはずの命が、原発事故による避難指示により助けることができず、県警・自衛隊等による捜索がされるまでの一か月間、遺体を野晒にしたことに、命令を無視しても捜索に入ればよかったと今でも後悔の念が強く残っています。繋ぐことができなかった命、残されたご家族の心の傷を考えると、「生きて生き切り、古里と亡くなった人たちの生きた命の証を残したい。」これが震災来、私を動かしている根っこで、これからも変わらない思いです。

縁あって長井市にお世話になり出会ったものが、今では私たちの財産となっています。このなかでも命の循環を謳うレインボープランと出会えたのは、運命染みたものを感じます。冒頭の「甦る」の仕込を初めて私たちの手で行った頃と比べ、避難者の皆様の状況も変わり現在進行形で複雑化しているなかではありますが、「甦る」試飲会の主催が市民農場様の支援を頂きながら私どもの鈴木酒造店と変わります。復興支援酒でもある「甦る」試飲会では、これからの支援の形を考え、小さいながらも市民と私たち避難者の想いの交流の場にしたいと考えております。告知の際は、ぜひご参加頂ければ幸甚です。

鈴木酒造店長井蔵 鈴木 大介



第6回 定期交流会

だんご下げ交流会を行いました

1月22日（木）午前中に、小正月の伝統行事「だんご下げ」を行いました。

小さめのだんごの木に紅白の餅をさして、次に鯛や宝船、小判など縁起の良いふながしをつけ、最後に自分で折った奴さんと風船をさげて完成です。「懐かしい。昔やった記憶がある。楽しい。」などの声があがりました。

完成した後は、楽しいお茶飲みです。初めて参加した人もいたので、簡単な自己紹介をしました。交流会も6回目になり顔なじみの人が増え、会話が弾んでいるようでした。



冬の交流会のお知らせ

今年の冬は大雪で、毎日雪かきなどで大変な思いをされていることと思います。

家の周りも雪にすっぽりと囲われてしまい、みなさんも驚いているのではないのでしょうか。外に出る機会も少なくなっているのではないのでしょうか。

さて、今回で4回目となる「冬の交流会」を下記のとおり企画しました。

第一部は雪遊びコース(そりすべりや雪ダルマ・かまくら作りなど)と温泉コース(卯の花温泉 はぎ乃湯)に分かれて行ないます。お昼は全員で美味しいお餅の会食という内容です。

子供達は、思いっきり雪遊びを楽しんで、大人達は、温泉につかって日頃の疲れを癒したり、なかなか会えない人とおしゃべりが出来る絶好のチャンスです。皆さんお誘い合わせのうえ、ご参加下さい。

餅会食だけの参加も大歓迎です。皆さんのご参加をお待ちしています。

日時 : 2月21日(土) 10時~14時



**会場及び
集合場所** : 老人福祉センター

「雪遊びコース」、「温泉コース(はぎ乃湯)」とも老人福祉センターに
10時に集合してください。

*「温泉コース」をご希望の方は、はぎ乃湯まで送迎します。

*もち会食のみ参加の方は、11時50分集合です。

参加費 : 無料

申込締切 : 2月17日(火)

電話またはFAXでお申し込みください。



お申し込み・お問い合わせ

TEL 0238-88-3711 / FAX 0238-88-3712

(担当 : 鈴木、手塚まで)

参加申込書

参加者氏名 (保険に加入しますので、参加される方全員の名前と年齢をお願いします。)

参加者氏名	年齢	参加者氏名	年齢

○希望するコースに丸を付けてください。

・ 雪遊びと会食

・ 温泉と会食

・ 会食のみ

あとがき 「だんごの木はいつまで飾っているのですか？」とよく聞かれます。

地域で多少の違いはあるとおもいますが、この地方では3月の啓蟄(けいちつ)の日(3月6日)か、春彼岸入りの日(3月18日)までと言われています。

《啓蟄》とは、大地が暖まり冬眠していた虫が、春の訪れを感じ穴から出てくる頃のことです。

まだまだ寒い時節ではありますが、日中の時間が延び、日差も徐々に暖かくなってきます。少しずつ春が近づいています。